

ディスクレコーダーの空き容量が回復しない場合の原因と回避方法について

ディスクレコーダーの空き容量が回復しない場合の原因と回避方法に関する情報です。

症状

ディスクレコーダーの空き容量が回復しない。

以下の操作を行っても、ディスクレコーダーの空き容量が回復しない。

アップロード済みクリップの削除

【クリップを選択し DELETE ツールメニュー内のリサイクルボックスを空にする】

アップロード済みクリップをVTR 素材に戻す(リポート)

【クリップメニュー VTR 素材に戻す】

プロジェクトファイルの削除

【ファイルメニュー 削除】

原因として、以下の操作ケースが考えられます。

操作方法 / 原因 / 回避方法

<ケース> アップロード済みクリップの親子関係

操作方法

1 - 1 (プロジェクトファイルのコピー)

ファイル A を開いた状態で、ES-7 のファイルメニューより「名前を付けて保存」
ファイル B というファイル名で別名保存し、ファイル A のコピーファイルを作成。
ファイル A (ファイル B) 内のクリップをリポートもしくは、プロジェクトファイルを削除する。ファイル B (ファイル A) は削除せず残している場合。

1 - 2 (クリップピンウィンドウのコピー)

ファイル A にファイル B のクリップピンを追加(ウィンドウメニュー ファイルをクリップピンから追加)してくる。
ファイル A (ファイル B) 内のクリップをリポートもしくは、プロジェクトファイル自体を削除する。ファイル B (ファイル A) は削除せず残っている場合。

1 - 3 (デュレーションを縮めて子クリップを作成する)

クリップピン(親クリップ)をダブルクリックしビデオクリップエディターを起動
マーク IN/OUT 設定後、追加ボタンをクリックして新たなクリップを作成(子クリップ)
子クリップは残し、大元(親)クリップを削除もしくはリポートした場合。

1 - 4 (クリップピンのコピー)

クリップピンを選択し、編集メニュー コピー&貼り付け(Ctrl+C / Ctrl+V)
コピーしたクリップは残し、コピー元クリップを削除もしくはリポートした場合。

原因

クリップピンをコピーした場合、クリップピンの親子関係が成り立ち、ディスクレコーダー内の容量は親クリップと子クリップでリンクします。

そのため、親子として成り立っているクリップピンを全て削除しなければ、容量は回復しません。このような仕様となっております。

回避方法

親子関係として関連するクリップピンを全てリポート/削除する必要があります。

それにより、ディスクレコーダー内の容量は回復します。

【ケース】プロジェクトファイルの削除

操作方法

Windows NT のエクスプローラー上で削除
マイコンピュータ 【C】 ES-7 DATE 削除するファイルを Delete し、
NT 上のごみ箱を空にする。(この操作は誤操作ですので行わないでください)

原因

ハードディスクの容量とプロジェクトファイルはリンクしています。
NT 上で削除してしまいますと、ハードディスクとプロジェクトファイルのリンクが外れてしまい、ファイルのデータしか削除されません。
ディスクレコーダー上のデータはごみとして残ってしまいます。

回避方法

ES-7 上のメニューよりプロジェクトファイルを削除してください。
ファイルメニュー 削除 ファイル名を指定してダイアログ内の削除ボタンをクリックする。
上記の方法ですと、ファイルデータ/ディスクレコーダー内が同時に削除されます。

注: 削除の際、ダイアログ内の削除ボタンをクリックせずに Delete をしてしまいますと、NT 上のごみ箱へ移動します。この場合も、NT 上での削除となり、ハードディスクとプロジェクトファイルのリンクが外れてしまいますのでご注意ください。
なお、NT 上で削除してしまった場合は、フォーマットをして頂かなければ容量を回復させる事はできません。

【ケース】プロジェクトファイルをMO やフロッピーに保存

操作方法

ES-7 上の「名前を付けて保存」にて保存場所をリムーバルディスク (3.5 インチ FD) に指定し、直接 MO (3.5 インチ FD) へ保存しバックアップを取った場合。(この操作は誤操作ですので行わないでください)

原因

直接、MO (3.5 インチ FD) に保存してしまうと、MO を外した際に不具合が生じディスクレコーダーの容量が回復しない可能性があります。
なお、この場合も親子関係が成り立っていますのでコピー元のファイルを削除しても MO 上に子ファイルが存在するため、容量は回復しません。

回避方法

エクスプローラーで C ES-7 DATA の下にあるファイル A をコピーし、DATA フォルダ内で貼り付けを行い、ファイル A のコピーファイルを作成。
出来たファイルのファイル名を C に変更。
ファイル C を MO (フロッピー) へ保存しバックアップを取って下さい。

参考: プロジェクトファイルのコピーを作成する場合

プロジェクトファイル自体のコピーを作成する際は、ケース 1 - 1 (ES-7 上で別名保存) で説明した方法をご使用下さい。
ケース にて説明した NT 上でのファイルのコピー方法ですと、コピー元ファイル(コピーファイル)内のクリップピンをリポート/削除した際には完全にディスクレコーダーから削除されるため、コピーファイル(コピー元ファイル)内の同一クリップピンも同時にリポートされますので、ご注意ください。

【ケース】圧縮をかけてのアップロード

操作方法

圧縮率(設定 オプション 圧縮レベル)を高くして使用したアップロードクリップをリポートもしくは削除した場合

原因

圧縮がかかっていない状態で容量が戻りますので、思ったより容量が回復しないと思われる事があるかもしれません。

回避方法

設定 オプション クリップタブ 圧縮レベルを、圧縮をかけた時と同じ設定状況にして確認して下さい。

以上が、ディスクレコーダーの空き容量が回復しない原因として考えられる操作となっておりますのでご確認ください。